

仏様のおはなし新シリーズ第116集「虚偽不実(こけふじつ)」

世界中の暖かい海域にいる大型魚でシイラという魚がいます。魚偏に暑いと書きます。日本でも広い地域で食されており、

7月から10月頃が旬だそうです。このシイラは、中国地方の広島や島根県の山間部では万作という名前で親しまれているそうです。

まだ今のように冷蔵や冷凍輸送が行われていなかつた時代のことです。瀬戸内海で大量に獲れたシイラを魚商が山間部まで

売りに出かけます。当時、山間部では珍しかつた魚です。飛ぶように売れる期待をして「シイラ要らんかね シイラ要らんかね」と威勢よく呼び掛けるのですが。なんと魚は全く売れなかつたのです。

なぜ珍しい筈の魚が全く売れないので、魚商は考えました。見向きもされなかつたのには、名前に理由があつたのです。

中国地方の山間部は大変稻作の盛んなところです。殻ばかりでの実のない粒を「しいな・しいら」といいますが、この音が、

シイラと同じだったので、稻作の盛んな地域で、空っぽの粒など誰も必要としません。そのことに気付いた魚商は、名前を豊年満作から「万作」と變えると魚は飛ぶように卖れたそうです。そのようなことから今でもシイラは、中国地方では広く万作と呼ばれ、親しまれています。

さて、阿弥陀さまのご本願に出遇われた親鸞聖人は、自ら「虚偽不実のわが身にて」と言されました。虚偽とは、うそ、いつわり、そして不実とは実がない、空っぽの、真実ではないことです。

阿弥陀さまの智慧の光に見抜かれた私は、先ほどの秕、粒殻のように、一見は真実のようでありながら、中身は実のない
空っぽの虚しい姿、煩惱しかない姿であります。

その私をお見抜きになられ、虚偽不実の私を見捨てずにはおけないと働きづめで動いてくださる「南無阿弥陀仏」のお念仏でした。



福岡組